



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 174 号

平成 31 年 3 月 29 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「流氷 (ウトロ・斜里町)」

(写真撮影：病理学講座 西川 祐司)

第 7 回 医学科白衣式 …………… 2	ソーシャルメディアの適切な利用について …………… 33
平成30年度 外国人留学生交流事業が実施されました …………… 3	平成31年度 保健管理センター健康相談日・行事予定…………… 34
授業評価(平成30年度前期) …………… 5	国民年金の学生納付特例制度について …………… 37
第3回 先輩看護師と行う 看護技術スキルアップトレーニング …………… 30	平成31年度 日本学生支援機構奨学生の募集について …………… 38
医学科第 5 学年地域枠学生との懇談会を開催 …………… 31	教員の異動 …………… 38
新歓行事等における飲酒事故の防止について …………… 32	今後のスケジュール …………… 38

「第7回医学科白衣式」

平成31年1月10日（木）旭川医科大学看護学科棟大講義室にて、医学科白衣式を執り行いました。医学科白衣式は臨床実習を前にした医学科第4学年を対象に、「医師としてのプロフェッショナリズムを育む」ことを目的としています。

平成24日年度から始まったこの白衣式は今年度で第7回を迎えました。式典には本学教職員の他、共用試験OSCE等様々な場面でお世話になったSP（模擬患者）の皆さまにもご出席いただきました。

式典では、吉田晃敏学長から学生へ祝福と激励、さらに「医師としてのプロフェッショナリズム」についてお話がありました。

続く、白衣の授与にあたっては、7名の教授が白衣プレゼンターとなり、学生1人1人に名前入りの白衣が着せられました。白衣授

与の際、プレゼンターから祝福や期待の声が掛けられ、学生たちがそれに笑顔でこたえる様子が見られました。

その後、吉田成孝副学長より代表の学生へ Student Doctor 認定証が授与されました。Student Doctor 認定証とは医師免許を持たない学生が、臨床実習を行うに足る最低限の知識・技能・態度を備えていることを患者さんや実習先に証明するものです。学生たちは、これから Student Doctor として更なる知識や技能の習得に励みます。

式の最後には、学生から〔43期生誓いの言葉〕の宣誓が行われました。誓いの言葉には学生が考えた医療人としての目標があげられました。

学生たちは誓いの言葉で目標とした医療人を目指し、新たな一歩を踏み出します。

〔43期生誓いの言葉〕

誠心誠意、患者さんとの信頼関係を育むことに努めます。
多職種と連携し、患者さんを尊重した医療を行います。
責任感を持って、最善の医療を模索し続けます。
たゆまぬ探究心を持ち、医学の発展に貢献します。
自分自身、仲間、地域社会のために、慈愛の心と誠実さを養います。



外国人留学生交流事業

平成30年度の外国人留学生交流事業が、2月22日(金)・23日(土)の2日間の日程で、本学に留学している学生とその家族及び関係教職員の計8名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうこととともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と教職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は午前8時30分に旭川を出発し、サロマ湖畔のサロマ湖鶴雅リゾートで昼食を取った後、網走市の北海道立北方民族博物館を見学しました。この博物館は北海道だけではなく、シベリアやアラスカなどの世界各地の北方民族の貴重な資料を展示しており、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

その後、宿泊先の知床第一ホテルに移動し、夕食後、ホテルの近くで開催されていた「知床流氷フェス2019」という野外イベントに参加しました。「流氷ライトアップ」「アイスドーム」「アイスバー」などの催しを行っており、幻想的かつ暖かみのある空間で知床の夜を満喫しました。

翌日は、流氷ウォークというアクティビティに参加しました。水平線の果てまで流氷に覆われたオホーツク海はまさに壮観の一言で、完全防水のウェットスーツを着込み、ガイドの方のレクチャーを受けながら、流氷の上を歩いたり、流氷の割れ目から海に入ったりして楽しい時間を過ごしました。その後、昼食を取り、休憩をはさみながら、午後6時頃に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。

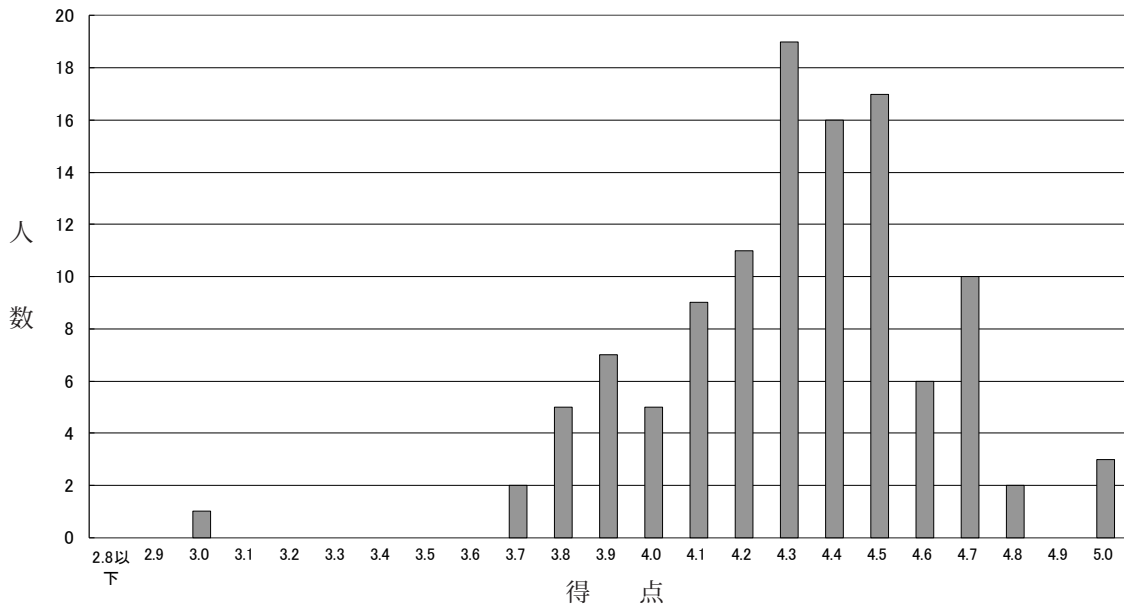




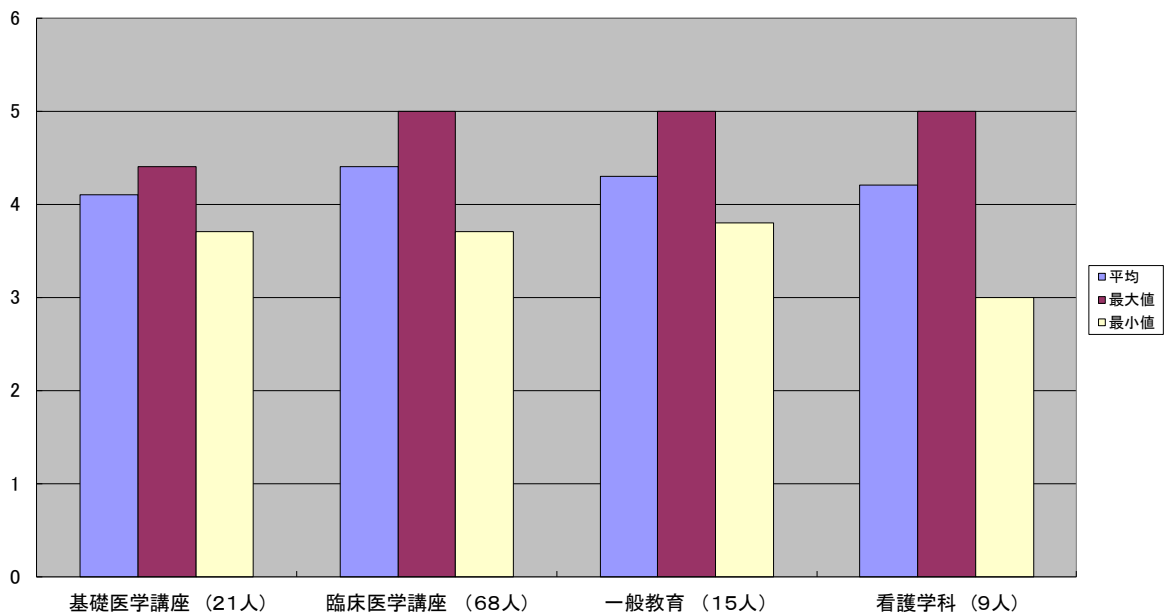
平成 30 年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																						
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
			1							2	5	7	5	9	11	19	16	17	6	10	2		3

(実施人数113・平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う | (非常によい) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増えましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う | (非常に良い) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：81 配付数：81 回収数：75 回収率：92.6%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.8	4.1	3.3	3.5	3.6	3.7	4.0

＊評価に対するコメント

自然科学入門（生物系）担当教員

本講義の目的は生物学の基礎を学ぶことであり、その内容は、高校「生物基礎」の教科書を題材にしている。学生からは、おおむね、「講義はわかりやすかった」とのコメントを頂いたが、一方で講義内容に物足りなさを感じている学生もいた。この点に関しては、本講義は入門科目であることから致し方ないところもあるが、来年度はもう少し踏み込んだ内容にブラッシュアップしたいと思う。

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：24 配付数：24 回収数：20 回収率：83.3%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.8	4.3	3.4	3.3	2.8	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価は昨年とほぼ変わらず3.7であった。個別の設問では、学生自身の努力に関する項目が0.2ポイント上昇しており、授業後の質問者も多くみられた。それを反映してか、試験結果も良好であった。難易度についての項目が下降している事は、このやる気の裏返しと言えるかもしれない。問7の今後の学習意欲の向上については0.3ポイント上昇しており、ここからも学生のモチベーションの高さがうかがえる。今後も意欲的に学習を続けてほしい。

科目名：自然科学入門（化学系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：2 配付数：2 回収数：2 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	5.0	5.0	4.0	4.0	4.0	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

今年度は受講した学生が2名と少人数ということもあり、講義中の対話を増やすことで、学生の理解度を把握しながら講義を行うことができた。講義では高校化学を薄く広く復習するのではなく、今後の講義内容の理解につながる基礎的な考え方の理解に重点を置いた。結果的に学生は高校化学で疑問を抱いていた部分をよく理解することができ、これが高い評価につながったと考えている。

科目名：医療概論Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：99 回収率：93.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.9	3.9	2.7	3.6	3.8	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅰ担当教員

本講義は、医療に通底している哲学的テーマについて検討することで、医療現場で哲学の思考法を使うことを目的としている。科学的知見や経験則を「覚える」のではなく、医学を学び始める段階で、自分で「考える」ことを経験し、今後の学びの基礎体力をつけることを意図している。問いを学生自身が吟味する形式であるため、学びの質は学生自身に依存するが、肝となる部分はどの学生も押さえることができていた。学年が上がるほどに、本講義で「考えた」経験の重要性に気づいてもらえるだろう。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：107 回収数：22 回収率：20.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.9	4.1	3.3	3.7	3.2	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

情報統計学担当教員

昨年度と同様に、全体的により評価をいただきました。問2,3が高く、問1,4は低い傾向は続いていますが、昨年度からさらに改善されました。授業前の予習の必要性を強調しており、「統計学の基礎」に関する授業後、試験前の質問数も多く、長い間に培われた慣習が少しずつ変わってきたことを実感しています。学年が上がっても切磋琢磨されて、よい雰囲気を持続されることを願っています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。「情報リテラシー」での授業成果は、大学教育用ホームページにて、各年度の入学者ごとに公開されています。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：100 回収率：94.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.9	3.6	2.2	3.5	3.7	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

地域医療学担当教員

アンケートより、授業は地域医療の現状とそれに対して我々がいかなる行動をとるべきかについて考えさせるという機会になっていると判断できる。医師は困っている人を救う職業であるという原点について今後も授業で学生に伝え、本学卒業生が地域医療へ積極的な貢献ができるようにしたい。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：106 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.5	3.6	2.4	3.3	3.7	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

心理学 担当教員

本講義の目的は、医療に必要な心理学の基礎知識を修得することであり、基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野から構成されている。

予習・復習についての評価は2.1、2.4であり、前年度と同様に低かった。したがって、今後は、宿題や関連書籍の紹介など講義以外での学習を増やすための工夫が必要であると思われる。

一方、出席と努力は4.5、3.6、難易度は3.7、学習意欲は3.6、科目全体の目的到達についての評価は3.3、満足度は4.0であり、例年と同様の安定した評価が得られた。その理由としては、各分野の知識を厳選したプリントを毎回使用したこと、模擬実験や心理検査等を適宜取り入れたことが考えられる。今後も、満足度を上げるために講義内容をさらに改善してゆく必要があるだろう。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：108 回収数：52 回収率：48.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.2	3.5	3.2	3.7	3.6	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

生化学1 担当教員

生化学1は、生化学2および機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点として、また生化学実習のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらの異常による病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する「生化学」の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良しています。講義ごとの小課題により重要ポイントを復習することや、講義日程終了後でしかも生化学実習の開始前に単位認定試験を実施するなどの工夫により学習効果があがるよう企画しています。自由記載コメントでは、過去問配布が試験対策のみならず、知識を深める事、授業の理解度確認にも役立つ事(1名)があり、今後さらに改善を継続するよう考えています。授業評価点では、問1と問4(自身の予習・復習)の評価点が低く(2.7、3.2)、再試験対象者も多い(18名)ことが極めて残念です。今後、各自の発奮を期待します。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣を身に付けさらに徹底していただきたいと思います。

科目名：機能形態基礎医学I（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：125 配付数：67 回収数：51 回収率：76.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.2	4.1	3.3	3.6	3.4	3.8	3.6

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学I 担当教員

今年度は、「アクティブ・ラーニング」の発想で学生の相互教授・相互評価による授業を部分的に導入し、自学自習せざるを得ない状況に学生を強制的に追い込んだ。その結果、各学生の「学生担当講義」での評価点と筆記試験成績の間に高い相関が認められ、この方法は教育効果の向上に一定の成果があったと思われる。ただ、各学生担当講義直後に記名式で行なったアンケートでは「大変ためになった」という意見が大多数を占めたのに対し、今回のこの匿名式の授業評価コメントでは「学生の稚拙な講義はやるだけ無駄」だの「面倒だからやりたくない」など非建設的な意見が多数寄せられたのには、心底失望した。

科目名：医療社会学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：101 回収率：84.9%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.4	3.4	2.9	3.4	3.4	3.2	3.2

＊評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

本科目では、医療社会学の基礎的な知識と医療社会学実習で必要となる質的調査法を主に扱っています。現時点までの実習への取り組みをみると、本科目によって質的調査法の理解が進んだと考えています。今後も、医療社会学実習での取り組みの成果もふまえて、医療社会学と質的調査法への理解がより深まるような授業を心がけていきたいと考えています。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：118 回収数：108 回収率：91.5%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	3.7	3.3	3.1	3.3	3.3	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1の内容をさらに発展させて代謝とその異常による病態を一連の講義展開により分子レベルで理解できるように、そして機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点となるようにカリキュラムを組んでいます。毎回の講義では小テストやレポート課題により重要ポイントを復習して各自が学習効果を高められるよう企画しています。自由記載コメントでは、授業が分かりやすく(1名) 楽しい(1名)、授業レジメの改良を求める意見(2名)があり、今後さらに改善・継続し、これら要望にも対応可能な範囲で答えていきたいと判断しています。授業評価点では、問1と問4(自身の予習・復習)の評価点が低く(2.7, 3.1) 残念です。本科目の内容は、生命現象を分子レベルで学ぶものであり医学の基礎を成すものです。生化学1やこれまでの講義科目に比較して分量や難易度が増していると感じることはあるかもしれませんが、本科目習得の必要性と今後展開される基礎および臨床医学の学習に備えるためにも、予習・復習及び小課題レポート提出など、日々の自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思います。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：56 回収率：46.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.1	3.8	3.2	3.7	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

本年度から3分の2以上の出席を義務付けました。問7で3.8、問8で3.9の評価を頂きました。そして、担当講師数も多く、講座間で連携が取れていないとの指摘を受けました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで未だ不確定な要素の多い、難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。専門講座がないにも関わらず、30コマは多いと考えます。コマ数は少なくした方が良い(免疫学実習も含めて検討課題です)。定期試験の問題のレベルは至って標準的なものです。最低限はクリアしてください。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：119 配付数：119 回収数：22 回収率：18.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.5	3.8	3.0	3.9	3.8	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

医用機器学 担当教員

平成30年度は、学期の途中からコーディネーターの所属が教育研究推進センターから先端医科学講座へ異動となったため、担当講座名が途中で変更になった。科?の担当講座は、教育研究推進センター、?学センター、放射線医学講座および所属変更となった先端医科学講座で、担当教員は学期開始時の教育研究推進センター当初のそのままである。アンケートの回収率は低いが、本評価の結果から科?の最終達成度、科?の難易度、今後の学習意欲および全体の満足度はほぼ4近くであることが明らかとなり、ほぼ満足できると考えられる。

さらに出席に関しても4.5となっておりこの点は良い結果と見える。??で、予習、復習、宿題に関する項?はいずれも3.0となっており、改善が必要と考える。これには予習復習が必要な内容に関して講義中の試験などを実施することなどで改善する方法を考慮する必要があると考えられる。試験に関しては、各担当講座に試験問題の作成とその回答を完全依頼して実施しているもので、各担当講座の意向に沿っている。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：120 配付数：120 回収数：15 回収率：12.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.6	4.4	3.6	4.0	4.2	4.0	4.5

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。例年と比較すると、授業アンケートの回収率が極端に低いので、何とも言えませんが、積極的な授業参加を促すよう、来年度も工夫したいと思います。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：120 配付数：120 回収数：8 回収率：6.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.0	4.3	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

今年度の学生評価の点数は、この3年間で一番高いが、回収率は、平成28年度が51.9%、平成29年度が91.7%、今回（平成30年度）が6.7%であり、今年度は、ほとんど回収されていない。要するに、今回の学生評価はよほど関心のあった人のみが提出した可能性があり、結果としては信頼性にかけるアンケート調査となっている。学生の評価は、消化器医学だけでなく全講義の内容を改善するためには、必要不可欠なものであり、そのためには学生全員の協力が求められる。教育企画係は、各学年の責任者に講義の内容については学生が主体的に関わるべきであることを伝えて、アンケート実施の際に全員に呼びかけてもらうようにすべきである。また、アンケートに興味をもってもらうために、良かった講義、悪かった講義をあげてもらい、何が良かったか、何が悪かったかなど具体的な指摘をしてもらうなどの工夫も大切である。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：121 配付数：121 回収数：92 回収率：76.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.9	3.1	3.6	3.8	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

授業担当の各科の先生方には頭の下がる思いだが、コーディネーターとしては、学生の意見にも耳を傾けたい。内科系・小児系・外科系と多方面から構成されている循環器・呼吸器の講義内容で、ある程度の重複が生じるのはやむを得ないが無意味な反復は避けたい。授業展開がもう少し長期間で余裕ある形であれば、反復により知識を確実にする効果も期待できるはずである。3学年最初の数ヶ月で終了してしまう短期集中臨床講義であるため、5学年の臨床実習時点では、循環器・呼吸器の知識はかなり危うい状況にある。新カリとともに講義展開の時期・方法に新たな工夫が求められよう。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：84 回収率：77.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.6	3.2	3.3	3.2	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

CBTの前に本講義の試験や実習も行われますが、「CBTがあるのに負担が重い」と授業評価に記載するのは、本学のカリキュラムを受け入れて入学したのなら筋違いではないでしょうか。衛生・公衆衛生学領域の知識は社会へ役割を果たすために臨床でも重要になりますので、今後も勉強を進めてください。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：5 回収率：4.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.8	4.4	3.8	4.0	4.4	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

整形外科学 担当教員

回収率は4.6%（5人）であり、評価システムの問題や、授業への関心と期待度の低さが感じられ、非常に残念であった。人を変える「ことば」はあるが、通り抜けた「ことば」であっても、その裏にある私達の真意や情熱が伝えられるような授業にしていきたい。将来、ともに働く医師の育成として、難易度の改善や学習意欲向上にむけた授業の工夫は継続して行う。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：90 回収率：82.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	3.5	3.1	3.2	3.0	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

今後の学習意欲を増すか？全体として満足できるか？の項目は3.3、3.4であり昨年3.5、3.6、一昨年の3.9、3.9より徐々に低下しており下記の難易度と関係するかもしれない。難易度が適切か？は3.0と低く、各講義がより専門性の高いものになっている可能性があるが、系統講義で学習したアドバンス版と考えると、ある意味有意義なはずである。コメントには複数名が本講義の試験がCBTテスト直前であったことの改善を希望する声もあり、試験日時の編成について全体の時間割を見直す必要がある。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：2 回収率：1.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	5.0	4.5	4.0	3.0	2.0	4.0	3.5

＊評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

回答数が少なかったのですが、manabaの運用開始から初めてのアンケートということが影響しているのではないかと思います。アンケート結果で評価値が比較的低値だった難易度に関しては関係者の間で検討したいと思います。今後もニーズに沿ったより良い講義を行いたいと考えています。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：21 回収率：19.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.5	4.3	3.6	3.8	4.3	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に位置し、実践に即して医師法を適切に理解し、屋内や屋外で亡くなっているヒトを診て、検屍（検案）ができることを目標としている。授業評価では、評定は平均4点以上であり、学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：麻酔科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：105 回収数：56 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.4	3.9	3.2	3.6	3.8	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

麻酔科学 担当教員

麻酔科学は、昨年まで合同で行われていた救急医学分野から分離され、歴史・薬理学などの総論から、各科手術の麻酔を含めた各論まで、主に周術期の全身管理に関する内容から構成されている。講義スライドや資料をデジタル化して6年が経過し、概ね順調に経過している印象である。今後も資料・講義内容を検討し、受講生の理解・知識獲得に役立てられるものになるように改善に取り組んでいきたい。

科目名：救急医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：103 回収数：57 回収率：55.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.7	4.2	3.4	3.6	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

救急医学 担当教員

災害をテーマにしたドラマ等によって学生は色々なイメージを救急に持っているようです。派手な面だけに注目が集まっているようですが、派手なことをするためには色々地味なことを学ばなければいけないというギャップに戸惑う学生もいるようです。しかしながら多くの学生は高い建物を立てるためには土台がしっかりしていなければいけないということも理解してくれていると感じています。今後は授業の中にも派手な面を取り入れて興味を強く持ってもらえればと思っています。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：6 回収率：5.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.7	3.0	2.2	2.7	2.7	2.8	3.3

＊評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

本コースの目的は、EBMにつながる臨床疫学の基礎的知識を得て、論文の批判的吟味をできようになることでした。さらに、自ら advance の学習をした人は、臨床研修後に自ら臨床研究を行う基礎ができたと思います。ぜひ、今後も発展的に学習を続けていただければと考えています。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：6 回収率：5.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	3.7	2.8	4.0	3.8	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

問8の総合評価では今年は4.2をいただきました。科目内容では問6で示した難易度で3.8、問7で示した学習意欲は4.0と評価をいただきました。これからも意欲が高まるように配布資料の工夫、検査機器の写真や染色体や遺伝子検査など新しい検査技術の紹介など授業内容の充実、授業方法の改善に取り組みます。また臨床検査データの読み方トレーニングなどを紹介して臨床実習や研修における学生の実用的助力となるように努力します。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：78 回収率：71.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.1	3.5	2.9	3.5	3.8	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

現代医学教育から脱落している心身機能低下がある方々の健康上の特徴と、それへの医学的対応について纏めた科目として2012年に始まった。本学独特の科目のため教科書が無く予習、復習の評価点数が低いものの、例年、総合評価始め問5-7も4を越え科目の意義は理解されてきたと思われるが、本年大きく評価が下がった。従来、総論と意識の持ち方を前期に、各論中心の知識領域を後期に展開してきたが、本年科目展開時期の変更により全て前期となり負担度の増加が原因かかもしれない。前半部分を低学年で展開する要望があったが参考に値対する意見と考える。

科目名：医療情報学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：97 回収率：89.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.6	3.1	3.6	3.8	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。履修内容は医療分野でのICT、個人情報管理、病院経営、知的財産などについてであり、いずれも医療人として習得しておきたい領域である。昨年度までは本講義の開講は後期であり、学生諸君から開講時期に関する不満の声があった。今年度から前期に開講することになったが、不満は特に聞かれなかった。内容については、理解するのに努力を要したとする意見と、わかりやすかったが、もう少し多くの事柄を学びたいとする意見とがあった。今後さらに深い内容でありながらも、学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義にするよう検討したい。

科目名：医療概論Ⅳ（医学科第4年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：13 回収率：11.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.5	4.2	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅳ 担当教員

2015カリキュラムでの医療概論Ⅳは、今回が初年度で、緩和医療、老年医学、栄養学の3つのパートで構成されている。初年度のため、教員への時間割周知が不十分で、タイムマネジメントに問題があったことが指摘されました。来年度は、その点にも注意して講義の質を上げていきたいと考えています。

科目名：医療安全（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：27 回収率：24.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.7	3.1	3.6	4.0	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

毎年少しずつですが改善を加えてきたこともあり、学生の皆さんはよく学習していたようです。今年度はLMSを利用した資料配布を行ったこともあり、事前に資料を閲覧している学生もいました。次年度は薬剤関連エラーに関する内容を充実させる予定です。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：17 回収率：15.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.3	3.7	2.8	3.6	3.7	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

学生評価の各アンケート結果は、概ね「3」を上回る評点を獲得していた。とりわけ、授業に対する学生の満足度（問8）に関しては、例年平均を上回る結果であった。今後も引き続き、学生の学習意欲を向上させるための授業の実現に向けて取り組んでいきたいと考える。一方、「情報量が多く重要なポイントが分かりにくい」といった意見が見受けられたことから、take-home messageを示し、改善して行きたいと考える。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：7 回収率：6.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	4.3	3.7	4.0	4.0	4.4	4.1

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

臨床医学の講義は、臓器別系統講義、症候別・課題別講義と2段階で構成され、これに平行して医学チュートリアルが開講されている。言わば、縦糸に横糸、そして立体的な把握を目指している。講義の評価も例年と変わらず、これからも講義項目の入れ替え改変を行いつつ講義の質を上げていきたい。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.8	4.1	3.3	3.9	4.3	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

本科目は、現代社会と看護師に関する現象をマクロな視点から理解し、さらに、身の周りの諸現象を自分自身で考えてみることを目的としています。学生評価のスコアには、科目全体の難易度は適切であり、今後の学習意欲が喚起される内容であったことが表れていると思います。ただ、学習意欲が喚起されたにもかかわらず、具体的な予習や復習に積極的に取り組むまでには至らなかったようです。授業時間などの制限はありますが、今後は、発展的学習のために参考文献などを積極的に紹介することも検討しています。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：42 回収数：41 回収率：97.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.5	3.5	3.3	3.4	3.8	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

学生自身の評価では、「出席」、「努力」が4.5、3.5と高く、「予習」の評価は2.0と低かった。今後は事前に履修要項や教科書を読ませるなどの指導が必要であると思われる。

一方、達成と難易度については3.4、3.8、意欲と全体の満足度については3.6、4.0となり、ある程度高い評価が得られた。これは、発達心理学の理解に必要な基礎心理学の実習とレポート課題を行ったこと、動画等を含むマルチメディア教材を用いたこと、講義内容をまとめたプリントを利用したことによると思われる。今後も講義内容の改善を続けることで、より高い評価を目指す所存である。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：21 回収率：33.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.8	4.1	3.8	3.2	3.1	3.2	3.6

＊評価に対するコメント

看護化学 担当教員

毎年、講義開始時点から、「基礎概念の理解」が本講義の目的であって、術語や数式の暗記（理由を理解せずに記憶すること）をしてはいけないと説明していますが、今年もそれを理解できない学生が多かった。その理由は、それほど努力しなくてもなんとかできるだろうという根拠のない甘えです（学生に確認済）。アンケートで「授業を理解するための努力」をしたという学生が多いですが、はたしてそうでしょうか？質問に来る学生が非常に少ないのがここ数年の特徴ですが、それと成績不振は連動しています。いい加減に済ませるといって「サボリ」をやめて、現実まじめに向き合しましょう。曖昧なところは早く質問して解消しましょう。それができた学生は、良い成績を得ています。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：51 回収率：82.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.5	4.5	3.7	2.3	3.7	3.5	3.4	4.1

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

This course has developed lectures that do not require preparations and reviews for lessons. Report creation of other subjects also served as the preparations and reviews. We supplemented the lecture on the theme of computer manipulation method necessary for report creation, operation method of scanner, creation of graph and table etc. The score of the evaluation result of question 8 shows bimodality. For those who cannot come on to classes because they ignored the instruction in the lecture, they did not given anything special as it would hinder the progress of the entire lecture. They may be dissatisfied with that. Challenges remain in the classroom towards people who do not feel like receiving lectures at all.

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.9	4.9	3.9	2.5	3.6	4.1	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

医療史・医療哲学 担当教員

本講義は「なぜ人は人をケアするのか」などの、看護に底流する哲学的課題について、学生自らが考える形式の講義を展開している。発言の内容は講師側が驚くような鋭い指摘を行う学生もいる。本講義の必要性に気が付くのは、看護師になってからかもしれない。しかし、看護という職をする以上、生涯通じて必要となるテーマであり、繰り返し思考を深めて自分のものにしてほしい。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：42 回収率：70.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.5	4.9	4.5	4.6	4.0	4.1	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

看護学概論 担当教員

「学習意欲向上」が4.5、「満足度」が4.6とよい評価を受けました。「予習」が4.5、出席が「4.9」といずれも高く、つまり学生の皆さん自身の努力が学習成果に結びついたと考えます。予習したノートを見ながら講義を受け、提示資料は講義終了後にmanabaにupすることで、効果的な学習ができていたと思います。今後は指示がなくとも自ら必要な箇所を読んだりノートにまとめたりといった主体的な学びの力をつけてください。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.3	3.6	2.5	3.2	3.1	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

生命科学 担当教員

講義企画に対する学生評価は概ね良好であったと考えられたが、総合評価が昨年度から0.3ポイント低下した。具体的なコメントには、「1限目の講義が殆どであったので改善してほしい」とか「一部の内容に少し難しいものが含まれていた」というコメントがあった。また、初めて活用した「まなば」を「もっと分かりやすくして使い勝手の良いものになるように創意工夫を重ねてほしい」という意見もあった。これらの点を改善し、来年度から始まる新カリ移行科目に反映させたいと考えている。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.9	4.2	3.4	3.6	3.6	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

看護基礎物理 担当教員

総合評価は昨年度より0.2低下した。個別の項目では、問1（予習）が0.4低下したことに注意が必要だろう。一方、問7（学習意欲）は0.3増加している。また、問4（復習・宿題）も0.1ではあるが増加している。学習意欲を予習という行動に結びつけることができるか、今後の課題としたい。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：46 回収率：76.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.5	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	4.3

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

社会人（医療人）としての常識程度の統計学の基本の習得を目的とし、筆記試験7割、実習レポート3割で成績を評価しています。今年度は昨年度と同様に、全体的により評価をいただき、受講者も落ち着いて取り組んでいるように見受けられました。本講義を除けば、量的記述の基礎体力となる、計算、数字に触れる機会が看護学科ではなくなってしまうので、責任をもって取り組みたいと思います。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：36 回収率：60.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.5	3.9	3.3	3.7	4.1	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ 担当教員

昨年度と評価は大きく変わらないが、予習復習の部分でももう少し工夫の必要性を感じる。精神看護学Ⅰは、人間の発達段階から社会問題まで広く展開する内容で構成されているため、それぞれの授業内容のつながりをより意識しながら学生の学びを深めていきたいと考える。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：48 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.9	5.0	4.5	4.6	3.7	3.8	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

看護過程論 担当教員

紙上事例を用いた看護過程のため、講義・グループワーク・演習の構成をとって科目運営を行っています。正課内でのグループワークでは目標到達ができない場合、課外での学習が必要なのですが、個々人の学習ニーズ（やる気？）の差が大きく成果に影響していました。また、manabaで講義資料を授業終了後にupしたことに対し、「講義を集中して聞いて良い」「しっかり話を聞きたいので、レジュメは配ってほしい」など様々な意見を授業内でいただきましたので、次年度に向けて検討課題とします。

科目名：疫学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：25 回収率：41.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.2	3.7	3.1	3.4	3.2	3.4	3.7

＊評価に対するコメント

疫学Ⅰ 担当教員

講義は医学科の先生にもご協力をいただいておりますが、内容は看護学科のレベルに合わせて行っています。講義が難しいと思った人は予習が不十分なのだと思います。疫学については、卒業後も看護研究等に必須ですので、今回理解が不十分だと思った人は3年生でも講義を行いますので受講して下さい。

科目名：保健統計Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：25 回収率：41.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.5	3.0	3.2	3.2	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

保健統計Ⅰ 担当教員

統計学の授業は高校でも履修していると思いますが、保健統計の講義は実学を重視した内容になっており、レベルとしてはそれほど難しくないはずです（数式を覚えていなくても使い方を理解していれば間違いなく問題を解くことが出来ます）。保健統計学についても理解が不十分だと思ったら、3年生の講義を受講して下さい。

科目名：リハビリテーション看護学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.4	3.6	3.3	3.7	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

リハビリテーション看護学 担当教員

科目全体の満足度や学習意欲が増したかどうかについて評価が高いのは、リハビリテーション科の医師やセラピスト、脳卒中リハビリテーション認定看護師に寄るところが大きい。出席率が高いが、今年度も予習・復習に関する点数が低かった。新しい概念を学ぶのであるから、予習ができてくいのはある程度やむを得ないが、復習については、講義と教科書の内容との関連性を学習できるようさらに促したい。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：12 回収率：20.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.5	4.3	3.6	4.3	4.5	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

病態学 担当教員

本年度は、従来の講義後に行っていた確認テストをmanabaの小テストに移行し、全て自習としました。それによってできた空きコマで、疾患と大学病院病棟診療に関するグループワークを企画しました。

評価ポイントは例年通りで、ほぼ適切な企画であったと考えています。来年度も、より効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。最後に暖かいコメントをくれた学生さん、ありがとう。

科目名：在宅看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：32 回収率：54.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	4.8	4.4	4.4	4.1	4.1	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

在宅看護学では、「在宅看護とは何か」から始まり、訪問看護師の役割、介護保険、医療保険などの社会資源について学びました。グループワークも多く大変だったと思いますが、皆さんが実習に行く際、必ず必要になる学習内容です。この授業が、皆さんの在宅看護への興味・関心につながれば幸いです。

科目名：英語文献講読（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：23 回収率：39.0%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.5	3.6	3.7	3.4	3.2	3.0	3.2

＊評価に対するコメント

英語文献講読 担当教員

今年度も自習に多くの時間をかけて、看護・保健・医療の英文読解に挑戦されていることがわかります。学生時代に広く英語文献になじむことが看護・保健・医療の分野でエビデンスベースドナーシングを実践できる力を養い、文化的差異を理解できる力となります。今後はより実践に役立つ内容を工夫して各担当者の講義の魅力を高めていきたいと思ひます。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：43 回収率：72.9%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.6	3.8	3.5	3.4	3.5	3.5	3.1

＊評価に対するコメント

がん看護学 担当教員

がん看護学の学びは、3年次と4年次の実習を通して、皆さんががん看護の実践に直面し、さらに深めていかれることを期待しています。また、受講後には皆さんががん患者さんとその家族の理解をポジティブに変化させ、支援に対する意欲を高めている大きな成果を実感しています。今後は、さらに皆さんの関心にこたえられる講義内容について魅力ある講義に努めていきたいと思ひます。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：13 回収率：22.0%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.1	5.0	4.4	4.8	4.0	3.6	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

昨年度の結果を受けて、今年度は講義のオリエンテーションでの事前課題についての説明を例年より詳細に実施した。本年度、問1～4までの項目はすべて「4.0」以上であることから、学生が課された事前課題の意図をよく理解して予習・復習に取り組み、講義に積極的に参加していたことが分かる。残念なことは、今回の回収率が22%と例年よりもかなり低かったことである。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：52 回収率：88.1%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.7	4.1	3.9	4.1	4.3	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

科目全体の満足度、到達目標の達成、学習意欲に関する評価は高い。講義時間の最後に自分で講義内容のまとめをする時間を設けることや、アクティブラーニングの手法を取り入れ主体的な学習を促すような方法を引き続き行っていく。

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：23 回収率：39.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	3.9	4.0	4.0	3.8	4.1	4.0

＊評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は医療を中心に学ばれている皆さんが、保健と福祉を理解し、保健医療福祉を有機的につなげる力を培っていただきたく立ち上げました。法律や経済を看護に結びつける、小児から高齢者までのすべてのライフサイクルに関係する福祉的課題など、幅広い内容であり学ぶのに苦労があったようです。科目全体を通し大事なところは何か吟味し、皆さんが理解しやすいよう工夫していきます。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：20 回収率：31.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.1	3.0

＊評価に対するコメント

国際保健看護論 担当教員

統合分野として、看護を国際的視点で考えていく科目です。人々の生活と健康は日常的に世界とつながっており世界に目を向けていくこと、文化的背景の違う人々への看護として特に発展途上国を中心とした異文化への理解と尊重、コミュニケーションについてお伝えしました。「看護の対象は人間である」ことを基盤に看護職のグローバルな視点とは何か、質の高い看護を行うには国際的な感覚が必要であることについて学ぶことができたようです。講義のスケジュールがタイトであったことから、工夫し見直していきます。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：42 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.4	3.9	2.9	3.7	4.1	3.9	4.0

＊評価に対するコメント

医療安全論 担当教員

- ・成績や学生評価等から科目全体の到達目標はある程度、達成できたと考える。また、科目全体の難易度も適切だったと判断する。
- ・昨年の学生評価と比較して全項目でポイントがアップしたことから、改善点の効果はあったと考える。
- ・医療安全論の講義は3人の講師が担当しているが、学生より重複内容等の指摘があったことから、講師との打ち合わせを強化し改善していきたい。

実習企画(または演習企画)に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習(演習)に毎回出席しましたか。 問3 実習(演習)に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習(演習)計画	問4 実習(演習)の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習(演習)はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習(演習)内容	問9 実習(演習)の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習(演習)を進める上で役立ちましたか。 問11 実習(演習)によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習(演習)内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物(レポートなど)の量や内容は適切でしたか。 問14 実習(演習)は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習(演習)環境	問15 実習(演習)用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習(演習)は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎生物学実習 (医学科第1学年前期／必修)

履修者数：106 配付数：106 回収数：59 回収率：55.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.9	4.5	4.2	4.3	4.4	4.3	3.6	4.1	4.5	4.2	4.1	3.4	3.9	4.5	4.5	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

総合的な評価は昨年度とほぼ同程度の評価をいただきました。また、昨年度と同様に本年度も一部の実習テーマでグループ学習と発表会を実施しました。学生の反応は概ね良好であり、今のところ今後も同じ形式で継続する予定です。一方で、問8「指導担当者間の連携は適切でしたか」、問13「課された提出物(レポートなど)の量や内容が適切であったか」は低めの評価であり、改善すべき点です。教員間の連携強化はもちろんのことですが、レポートの量や提出期限につきましては学生の時間割や行事の日程などを考慮して設定しております。実習内容を減らすわけにもいきませんので、今後は実習時間内に終わらせる課題の量とレポート内容とのバランスをより一層考慮する必要があるかもしれません。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：106 配付数：106 回収数：41 回収率：38.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.8	4.5	4.0	4.7	4.1	4.0	3.7	3.8	4.4	3.8	3.7	3.2	3.6	4.0	4.4	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は昨年と変わらず3.9であった。調査票の回収率は例年90%を超えていたのに対して、今年度は39%であった。このため、今年度の評価を過年度と単純に比較することは難しいかもしれない。例えば、今年も例年通り当初示したスケジュールに従って実習を行ったにもかかわらず、問5(スケジュール)の評価が昨年より0.3ポイント増加した。この増加はばらつきの範囲内と判断すべきだろう。今後も実習内容の改善に努めていきたい。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：85 回収率：71.4%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.4	4.2	4.3	4.1	4.1	3.7	4.2	4.4	4.0	4.0	3.6	3.8	3.9	4.1	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

先ず、20件余りもの建設的なご指摘に深謝致します。内訳は、履修者間の温度差大4件、洗浄ビンやビーカーなど物品の不足が4件、教員間の不一致3件、その他、実習書の記載の改善点など多数の有益なご指摘を頂いています。予算の枠という制限はありますが、ご指摘を生かして最善の実習を目指して改善して参りたいと思います。また、丁寧な指導だった等良かったとのご指摘も5件、問18の4.1という得点からも有意義な実習だったことが伺え、スタッフ一同嬉しく思っています。最後に老婆心ながら、仕事はできる人のところに集まってくるものです。高度専門職を目指す皆様には、他人のことを論より自身を高めることに注力して頂きたいと存じます。

科目名：形態学実習I（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：123 配付数：123 回収数：87 回収率：70.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.6	4.3	4.1	4.4	3.8	4.1	3.8	4.0	4.2	3.9	3.7	3.6	3.7	4.0	4.0	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

形態学実習I 担当教員

形態学実習Iでは、人体の正常構造を総合的に理解することを目的としており、組織学実習と骨学実習の2つのパートから構成されています。このうち、組織学実習に関しては、「人体の各器官の組織切片を光学顕微鏡で観察し、その特徴を絵に描いて記録・説明することができる」ことを目標としています。本年度は、真面目に実習に取り組む様子が伺われ、積極的に質問する学生も多かったように思われます。また、毎回実習の終わりには組織スケッチを提出してもらい、こちらで採点(A,B,Cの三段階評価)するという新しい取り組みも行ってみました。実習の前半と後半では、提出されたスケッチに明らかなレベルの違いがみられ、それはとても嬉しいことでした。また、骨学実習に関しても骨の細部までしっかりと覚えようとする意欲的な学習態度も多くみられました。本実習に関して、色々コメントをいただきましたが、その意見を参考にし、来年度の教育に反映させていきたいと思っています。しかし、スケッチは組織学実習において大変重要な要素であるので、これだけは継続していくつもりです。来年度は、今回よりも良い点数がスコアされるように努力していきたいと思っています。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：22 回収率：18.5%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.6	4.3	4.0	4.2	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	3.9	3.8	3.8	4.0	3.8	4.1	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の協力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げていますが、総合的には4.1の評価を頂いており、動物（マウス）を使用した実習も企画されていますし、一応合格点ではないかと思われました。演習でのグループ分担の仕方ですが、医学部2年生であり、チュートリアルを経験もありますので、各グループ内で協力協調して担当を決めて進めて欲しいと思います。また、課題配布日時についても検討したいと考えます。それが上手くいかないというのであれば、本学のチュートリアル教育の不備と言えましょう。グループの人数に関して多すぎるかもしれませんが、講座持ち出しの費用も多く、教員の数の限界もあります。ご理解頂ければと考えます。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：88 回収率：73.3%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.7	4.5	4.8	4.8	4.8	4.7	4.5	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5	4.7	4.8	4.7

＊評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

学生の皆さん、微生物学実習は、講義で学んだ微生物学の事象と理論を具現化し、観察・検証することで、微生物学に対するより深い知識の習得を目的として、実習を進めましたが、如何だったでしょうか。

新体制で臨んだ初の微生物学実習でしたが、全ての項目で4.5点以上が得られ、これまでの旧体制での評価を上回る、過去最高の結果となりました。これは実習手順や実習スライドの見直し、手技の習熟度を上げるためのデモ動画導入などの成果と考えています。今後も、常に微生物の最前線を学んで貰えるよう実習内容の改善を行いたいと思います。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：4 回収率：3.3%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	5.0	4.5	4.3	4.5	2.5	4.3	3.0	4.0	4.3	4.5	4.0	3.8	3.8	4.5	3.5	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫学実習は、寄生虫標本、病理標本を肉眼、顕微鏡で観察し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解し、患者さんを目の前にして異種病原体（寄生虫）をばば間違いなく拾い上げる鑑別眼を養い、疑診寄生虫疾患の確認に必要、適切な検査項目を正確に実施できるよう自分の五感により実物を体感することである。実習内容は適切な質と量であったと思われます。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：8 回収率：6.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	5.0	4.5	4.4	4.9	4.6	4.8	4.8	4.3	4.5	4.5	4.6	4.1	4.6	4.6	4.3	4.9	4.8

＊評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

薬理学実習は、生体に投与した薬物が効いていることの実体験、さらには、得られた結果から妥当な薬理作用を考察し、講義で得た知識を定着させることを目的としている。ほんの少しの薬物しか用いることはできないが、この実習が、諸君の知識定着の一助となっていれば幸いである。薬をいかにうまく用いるかは医師の腕にかかっている。今一度、薬理学の復習をし、自分の理解に間違いがないか確認して頂きたい。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：97 回収率：80.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.8	4.6	4.2	4.4	4.0	4.2	4.0	4.2	4.0	4.0	3.3	3.4	3.8	4.0	4.3	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

腫瘍病理分野、免疫病理分野とも基本的な実習内容は昨年と同様であったが、腫瘍病理分野では初めての試みとして、7回の実習を通して病理解剖症例の様々な臓器の所見をバーチャルスライドで学習する「症例検討」を導入した。アンケートでは学生への負担が大きすぎるとの不満があった一方で、患者さんの病態の全体像が理解でき、興味深かったとの意見も多数みられた。来年度は全体の実習とのバランスをとるよう工夫して実施したいと考えている。また、タブレットやPCによるバーチャル顕微鏡観察が円滑にできないとの意見が複数出された。学生個人が持ち込む端末数が急激に増加したため、実習室内のWi-Fi環境が限界に達しており、今後できるだけ早く改善していきたい。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：119 回収数：78 回収率：65.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.7	4.4	4.4	4.6	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	3.7	4.2	4.0	4.1	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

昨年と比べて課されたレポートの量に対する評価は、3.7とやや上昇した。自由記載の欄でも、レポートの量が多いと感じているとの指摘が昨年よりも少なかった。限られた時間の中で一つ一つの実習結果を適切にまとめる能力を身につけることは、意義深いと考えているので来年度も同様の方針で行うことを考えている。今年度は、実習試験に遅刻して試験を受けることができなかった学生が3名もいたことが非常に残念である。来年度は、実習の説明の際に試験に遅刻しないことを周知させる必要を感じた。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：10 回収率：9.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.9	4.4	4.2	4.3	4.3	4.1	4.2	4.5	4.5	3.9	4.1	3.7	4.0	4.3	4.6	4.3	4.1

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

2016年度まで、グループ単位で衛生・公衆衛生学領域の別個の多様な研究的テーマに取り組む実習を行い実習発表会で成果を分かち合う形式をとったが、2017年度より実習展開期間の短縮を受けて、衛生・公衆衛生学の調査研究に役立つ実技習得実習と現場活動に関連した講義の実施とレポート作成を行う形式となり2年目である。回答者10名と少ないが、殆どの項目が4評価を上回り、地域の保健医療に役立つ知識と技術の習得につながったと考える。

科目名：法医学実習・演習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：109 配付数：109 回収数：19 回収率：17.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.5	4.3	4.3	4.1	4.1	4.5	4.1	4.3	4.2	3.8	4.1	4.3	4.0	4.3	4.3	4.4	4.2

＊評価に対するコメント

法医学実習・演習 担当教員

法医学講義の時間数が不足している為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状であるが、例年通り骨実習、検屍の講義を行った。授業評価の評点は概ね4点以上であり、有意義であったと考えられ、興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.8	4.7	4.6	4.5	4.7	4.5	4.7	4.6	4.1	4.0	3.3	4.2	4.4	4.6	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

皆さん、授業評価にご協力いただきありがとうございました。回収率の高さからも評価からも皆さんが熱心にこの学習に取り組んだことが伝わってきました。実際の講義・演習も真摯に取り組んでいたと教員一同感じております。提出物の量が多い(3.3)という反面、難易度は適切(4.0)という結果でした。教員も量が多いと認識しています。しかし、学習目標の達成のために必要な内容・量と考えています。そのことは、皆さんも理解しているのではと自由記載から推測します。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：46 回収率：76.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.9	4.8	4.6	4.7	4.6	4.5	4.4	4.7	4.7	4.5	4.5	3.5	4.4	4.4	4.6	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

演習が今後の学習への意欲を増し、満足できる(ともに評価4.4)という評価であり、科目責任者として嬉しく思います。これは予習、出席、積極的な参加(評価4.8～4.9)という皆さんの熱心な取り組みがあったからこそこの評価であると考えております。課題の量・内容(評価3.5)について、目標到達には必要な課題内容であると考えております。課題の提示時期・提出用の用紙などについて意見がありましたので、検討していきます。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：39 回収率：66.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.8	4.6	4.5	4.1	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.4	4.4	4.6	4.4	4.6	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

実践看護技術学Ⅰでは、在宅看護学実習で受け持つ可能性の高い疾患を事例にまとめ演習を行いました。グループワーク、プレゼンテーション作り、実技の練習など、ボリュームのある演習ですが大変良いものになったと思っています。この学びが皆さんの実習に行かせることを期待しています。

科目名：高齢者看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：4 回収率：6.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.5	4.8	4.5	5.0	4.8	4.5	4.3	4.5	4.8	4.8	5.0	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

高齢者看護学演習 担当教員

ほとんどの項目に関して高得点であったが、manabaでの回収において、回収率が6.8%と非常に低く、信頼性のある評価とは判断しにくいと考える。回収率の向上に努める必要がある。問8教員間の連携、問9の講義科目との整合性、問10配布資料について他と比較して4.3～4.5と低い結果であった。今後演習内容の見直しを考えているので、参考にしたい。

科目名：小児看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.8	4.7	4.4	4.7	4.1	4.4	3.8	4.6	4.6	4.2	4.3	4.4	4.6	4.1	4.5	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

小児看護学演習 担当教員

評価は3.8－4.8点となり、学生にとって概ね満足できる内容であったと考えます。本科目は演習科目として、学生の主体的な姿勢が学習成果に直結します。評価項目の「予習」「出席」「積極的かつ真面目な参加」は4.4－4.8と高く、学生の主体的な姿勢が伺えます。個人ワークとグループワークを織り交ぜた授業であったことが、評価に影響したのではないかと考えます。来年度もこの授業スタイルのまま、さらに内容を充実させたいと考えます。

科目名：成人看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：9 回収率：15.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.7	4.4	4.6	4.4	4.6	4.1	4.3	4.6	4.0	4.4	4.1	4.3	4.4	4.6	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

成人看護学演習 担当教員

成人看護学演習は、第3学年の前期に履修する科目である。
後期から開始する成人看護学実習に向けて、急性期・慢性期にある患者事例を設定し、看護過程を含め、必要な看護技術を演習にて修得する科目である。
評価点は、4.0～4.9であるためほぼ良好と思われる。問11「実習(演習)によって技術を十分に修得できたか」については「4.0」である。昨年同様その点は低いが、学生は演習の中だけの技術の獲得は不十分であることを自覚できていると捉える。

科目名：精神看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：7 回収率：11.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.6	4.7	4.6	4.1	4.6	4.6	4.6	4.4	4.3	4.3	4.0	4.4	4.4	4.4	4.6	4.4

＊評価に対するコメント

精神看護学演習 担当教員

昨年度同様、一定の評価をしてくれている。この要因として、演習でロールプレイを多く取り入れた学生主体の学習をしていることと、演習をする準備学習の時間をしっかり確保していることで、学生個々の学びが深まっていると考えられる。また、当事者のミニシンポジウムも評価が高く、来年度も同様に取り入れていきたい。

科目名：母性看護学演習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：52 回収率：82.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.9	4.8	4.6	4.6	4.7	4.5	3.8	4.4	4.4	3.5	3.5	3.3	3.7	4.2	4.3	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

母性看護学演習 担当教員

各専門領域科目の演習は、時間割上3学年前期に30コマを分散して修了するが、母性は実習の直前1週間(6コマ/日×5日間)を演習週として集中して行っている。このため、学生にとっては紙上事例の看護過程展開と母性看護特有の看護技術の習得という内容が過密に思われたようで、難易度も3.3とこれまでの最低であった。出席や参加については高得点であり、学生の取り組みには敬意を払う。
妊産婦と新生児を対象とする科目であり、慎重さを要求されることを踏まえて取り組んでほしいと考えているが、学生の学びの結果を「易しい」と感じるように工夫する。

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ (看護学科第1学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.1	4.6	3.7	4.7	4.5	4.4	4.5	3.9	3.7	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

実習の満足度、看護職者を目指す意欲は4.4の評価でした。胆振東部地震発生の影響で病院実習が1日少なくなった中でも、皆さんの取り組みにより実習ならではの学びが得られた結果と考えます。地震・災害対応の課題について多くの意見をいただきました。安全な学習環境を整えられるよう検討していきます。今回の体験を忘れず、看護を学び続けることを期待します。

科目名：成人看護学実習Ⅰ (看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修)

履修者数：63 配付数：63 回収数：20 回収率：31.7%

＊評価結果(平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ 担当教員

第3学年後期から第4学年前期にかけて行う慢性期看護の実習である。場所は内科病棟(6階西と9階西)にて、学生は受け持ち患者の看護過程を展開する。問2、問3、問4、問5、問6、問7は得点が高く、学生は、臨床実習における学習内容に対する満足度が高かったと言える。師長をはじめ病棟のスタッフの皆様の適切な指導に感謝する。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：27 回収率：42.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.2	4.6	4.1	4.4	4.3	4.6	4.3	4.2	4.6	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ 担当教員

昨年度に引き続き、今年度の回収率も42.9%と低かったことは非常に残念なことである。しかし、項目すべてが4.1以上であったことから考え、学生は実習に意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。実習にご協力頂いている関係領域の皆様に深く感謝申し上げたい。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：26 回収率：41.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.7	4.8	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.6	4.7

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ 担当教員

第3学年後期から第4学年前期にかけて外来で行う実習である。場所は一般診療外来や看護外来、点滴センターや内視鏡室、入退院センターや地域連携室である。実習形態は主に見学実習だが、特に問3の得点が高く、学生は、学内での関連する講義科目との対応がとれていたと評価している。指導看護師の専門的な知識を基盤とした患者への実際の看護支援に触れての結果であるとする。外来の各部門の師長をはじめ認定看護師や指導看護師に感謝する。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：30 回収率：47.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.3	4.6	4.6	4.0	4.1	4.4	4.1	4.4	4.6	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ 担当教員

学生評価は4.0台であり、概ね満足できる実習であったと考えます。中でも「指導教員と実習指導者の連携」「安全と事故対策」が高くなっています。子どもは活発で、認知力が不足しているため、思わぬ事故が起こる危険があります。今年度も実習開始前に保育園と教員から安全についてのガイダンスを実施しました。子どもに不慣れな学生が子どもの安全に配慮しながら実習できるよう、保育園と連携して教育にあたりたいと考えます。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：19 回収率：30.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.7	4.2	4.0	3.8	3.8	3.9	3.6	3.8	4.1	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅱ 担当教員

評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足できた実習であったと考えます。「カンファレンスの内容」が最も低い評価でした。カンファレンステーマは病棟実習では学生、外来実習では教員が設定しています。学生にテーマ設定や討議方法などカンファレンスの基本的な留意点を指導する。また、小児外来看護におけるテーマの重要性、設定の意図を学生に伝え、実習と関連づけて議論できるように教育にあたりたいと考えます。

科目名：高齢者看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：29 回収率：46.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.2	4.4	4.4	4.6	4.6	4.3	4.4	4.6	4.5	4.3	4.6

＊評価に対するコメント

高齢者看護学実習 担当教員

全ての項目において4.2以上となっており、実習の満足度は高いと評価できる反面、回収率が46%であることから、信頼性に欠ける面もある。回収率の向上に努める。

ガイダンスに関しては資料を整理し、分かりやすい説明に心がけたため、前年度よりも評価が改善された。提出物の分かりにくさに関しては、新たな資料を追加し工夫をしている。実習しやすい環境を整えることに今後も尽力していきたい。

科目名：精神看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：29 回収率：46.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.6	3.4	4.3	4.6	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

精神看護学実習 担当教員

精神看護学実習は現在2施設で病院実習をしている。1施設は遠方にあり、学生には物理的な負担をかけているのが現状である。その中で、より良い学習環境づくりをしているが、臨床側と調整不足の点もあり、来年度に向けてさらなる準備を進めていきたいと考えている。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：36 回収率：57.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.6	4.6	3.9	4.7	4.7	4.4	4.6	4.6	4.7	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

母性看護学実習 担当教員

記録物・提出物に関する項目が3.9である以外はすべて4点以上であり、実習の満足感も4.6と高い評価であった。実習期間中、1週間は病棟、残り1週間は外来と分けざるを得ず、学生にとっては短期間で集中して取り組んだ結果であり、その努力に敬意を払う。

この実習が満足できる結果となった背景には、実習直前1週間の母性看護学演習による準備が影響していることもあると思われるのだが・・・

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：63 配付数：63 回収数：17 回収率：27.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.4	4.5	4.6	4.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.5	4.2	4.5

＊評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

訪問看護ステーションでの実習は、2週間と短いですが色々なご家庭に訪問することが出来たと思います。

その家庭ごとの生活背景や抱える問題など、多様な価値観があると学んだと思います。

自分の価値観がすべてではないこと、在宅で暮らす療養者の生活にそっと寄り添うこと、この2点は、在宅看護で大変重要になります。

疾患はもちろん、生活も支える。皆さんが訪問看護師に興味を持ってもらえると嬉しいです。

第3回 先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング

12月18日(火)13時から基礎看護学実習室において卒業・就職を控えた看護学科第4学年が同窓会の先輩看護師と看護技術の練習を行う「看護技術スキルアップトレーニング」が行われました。今回は昨年に引き続き3回目の開催ということで、より安心して就職することができるよう、タイトルを「看護技術学習会」から「看護技術スキルアップトレーニング」と改め、看護学科同窓会や旭川医科大学病院看護部のご協力のもと、この4月から看護師として勤務される予定の4年生7名が、採血、点滴静脈注射、心電図の装着、吸引の練習を行いました。参加学生達は、グループに分かれて本学の卒業生でもある5名のチューター看護師さんから、基礎看護技術のほか、患者さんへの声かけの方法、スムーズな処置の方法等、これまでの授業や実習で学んだ内容がそれぞれの現場でどのように実践されているかについて、丁寧に教えて頂きました。練習後の茶話会では、リラックスした雰囲気の中で、就職にあたり不安に感じていること、疑問に感じていることなどを相談する機会が設けら

れ、先輩看護師との交流を深めていました。

練習後のアンケートでは、学生から「実習や国試の自習等で看護技術を確認することが久しくなかったため大変有意義だった」「看護師さんからアドバイスやコツを教えてもらえて、少し自信がついた」「看護師さんにお話を聞ける貴重な機会だった。病棟での仕事の話も聞くことができるととても楽しく、働くことがイメージできた」、看護師さんから「茶話会では、自分達の体験談を話したり、学生と交流できてより良い時間となった」「学生が希望する技術を一緒にやってみて、学生さんのためになると思う。大変やりがいのある企画なので、多数の参加があればと思う」という感想がありました。

今回のスキルアップトレーニングでは、看護技術の習得に役立つばかりでなく、これから看護師としての第一歩を踏み出す4年生にとって、就職前の不安や悩みを解消する良い機会となったと思われます。看護学科では今後も、毎年継続して開催しますので、多くの参加をお待ちしております。



医学科第5学年地域枠学生との懇談会を開催

本学学生のキャリアプラン支援委員会の主催により、医学科第5学年地域枠学生との懇談会が、平成31年1月29日（火）緑が丘テラス2階の病院会議室において開催されました。

懇談会には、医学科第5学年の47名と、大学側からは、吉田学長をはじめ、卒後臨床研修センター、教育センター、入学センター、地域医療教育学講座及び学年担当の先生方11名が参加されました。

懇談会では、まず初めに、吉田学長から「地域枠入学者に係る基本的な考え方等」についての説明があり、次いで、卒後臨床研修センター長 平田理事から「2020年 旭川医

科大学病院医師臨床研修プログラム」についての説明が行われました。さらに、専門医育成・管理センター 佐藤教授からは「新専門医制度」について、分かりやすくお話いただきました。

その後の質疑応答では、学生から、卒後臨床研修プログラムに関する質問や、自らのキャリアプランについての相談等があり、活発な意見交換が行われました。大学では、今後も、色々な形で情報提供を行っていきますので、不明な点などがある場合には、卒後臨床研修センターや学生支援課にお気軽にお問合せください。



新歓行事等における飲酒事故の防止について

4月になると新入学生を迎え、部活動等による新入生歓迎行事が開かれます。何かとお酒を飲む機会も増えるかと思いますが、以下のことについて確認し、事故を発生させないよう、節度ある行動を心がけてください。

また、本学学生の懲戒規程に基づき、以下の事項に反する行為を確認した場合は、大学として懲戒を含め厳正に対処します。

1. 未成年者は飲酒しないこと。また、未成年者に飲酒を勧めないこと。
2. 体質的にアルコールを受け付けない人に飲酒を勧めないこと。
3. イッキ飲み等の危険な飲酒はしないこと。させないこと。
4. 飲酒をしたら、自動車・バイク・自転車の運転をしないこと。
5. アパートや公共の場所で騒音を出さないこと。
6. ゴミは放置せず、分別して捨てること。

こんな飲み会こわい。ぜんぶアルハラです。ーイッキ飲み防止連絡協議会からー

*酔いつぶすことを目的にしている。「つぶれ部屋」を用意している。

*ソフトドリンクを用意しない。ソフトドリンクを注文させない。

*伝統やしきたりでイッキ飲みをさせる。

*罰ゲームの一環としてお酒を飲ませる。

*飲酒を断りづらい空気や、場を盛り上げるために飲酒する雰囲気がある。

*体質的にお酒が飲めない人や未成年者、車や自転車を運転する人に飲酒をすすめる。

*酔って暴言をはく、暴力をふるう、セクハラをする、性的暴行に及ぶ。

ソーシャルメディアの適切な利用について



スマートフォンの普及に伴い、誰でも手軽に広く情報を発信することができる「ソーシャルメディア」(Twitter、Facebook、LINE、Instagram、Google+等)が広く社会に浸透し、今や学生生活には欠かせないツールとなりました。

しかし、仲間同士で楽しく活用できる反面、その影響力に対する認識不足から、発言内容が思わぬトラブルにつながる事例も発生しています。全国的にも、若者を中心とした不適切な発言や写真投稿によりSNSが炎上するというニュースが相次いでいます。

ソーシャルメディアには、読者を限定して情報を発信できるものもありますが、設定によっては、不特定多数の人が皆さんの発信した情報を見ることができます。一度発信した情報は、完全に削除することはできませんので、情報を発信する際には、常に公開範囲の設定がどうなっているかを確認してください。皆さんの何気ないちょっとした発言により、傷ついたり、不快に感じたりする人がいることを常に意識し、社会に大きな影響を与える場合があることを自覚してください。

また、ソーシャルメディアを利用する際には、法令を遵守することはもちろんのこと、本学の規則も遵守してください。大学や病院、臨床実習先で知り得た情報には、守秘義務が課せられていますので、このような情報を不用意に発信しないよう十分注意してください。本学学生として良識ある発言を心がけ、皆さんの行動や発言が、本学の信用に大きな影響を及ぼすことを自覚してください。

なお、ソーシャルメディアの不適切な利用が認められた際は、懲戒処分の対象とすることがあります。

◎保健管理センターの開所時間

9:00~16:30 (土・日・祝日及び春季、夏季、冬季学生休業期間は閉所)

◎健康相談日 (定期健診が行われる日は閉所します。緊急時は対応します)

主な相談内容	相談医等		定期相談日	相談時間
内科・外科	第一外科 医師	竜川 貴光	毎週木曜日	月～金 昼休み
内科	第一内科 医師	中川 直樹	毎週月曜日	
	第二内科 医師	滝山 由美	毎週火曜日	
	第三内科 医師	久野木 健仁	毎週水曜日	
*精神神経科	精神神経科 医師	田村 義之	毎月2回 (金曜日)	
*整形外科	整形外科 医師	谷野 弘昌	毎月第1・3月曜日	
*皮膚科	皮膚科 医師	斉藤 剛史	毎月1回	
*泌尿器科	泌尿器科 医師	玉木 岳	毎月1回 (火曜日)	
*眼科	眼科 医師	木ノ内 玲子 西川 典子	毎月第1・3水曜日	
*耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科 医師	山木 英聖	毎月1回 (金曜日)	
*婦人科	産科婦人科 医師	横浜 祐子	毎月1回 (木曜日以外)	
*歯科	歯科口腔外科 歯科医師	佐藤 栄晃	毎月第1金曜日	
健康相談全般	保健管理センター長 川村 祐一郎		原則として毎週金曜日昼休み 緊急の場合にはそれ以外でも可	

(注) *印の付いている科の相談希望の場合は、前日までの予約が必要です。

(整形外科以外は相談日が未定のため、相談依頼により対応します)

定期相談日等は、都合により変更することがありますが、その都度お知らせします。

体温計は、ありますか？
健康管理のために、
用意しておきましょう！！



保健管理センター来所時には、保険証は必要ありませんが、他医療機関を受診する場合には必要となります。必ず用意しておきましょう



【今年度行われる保健管理センターに関する主な行事】

*新入生ガイダンス（医学科1年・2年編入・看護学科1年）

医学科・看護学科1年 4月10日(水)13:00~15:10(4・5講目)大講義室
医学科2年編入 4月18日(木)8:40~9:40(1講目)保健管理センター

*定期健康診断（全学年）

第1回目 4月11日(木) 医学科3年・看護学科2年
第2回目 4月17日(水) 医学科1年・看護学科3年
第3回目 4月23日(火) 医学科4年・看護学科1年
第4回目 5月 8日(水) 医学科2年

(上記以外の学生は都合の良い日程で受診)

受付時間 12:30 ~ 14:30 **時間厳守**

◇受付場所は学生玄関です。

(学生証を持参し、ファイル等を受け取って下さい)

◇健康診断受診の注意事項

◎レントゲン検査 … 上着は無地のTシャツ等を着用。

アクセサリは付けない。

長髪はアップに(肩周囲に髪がかからない)

◎体脂肪測定 …… 裸足で測定。(パンスト・タイツ等では測定不能)

◎血圧・血液検査 … 腕回りを締め付けない服、袖が楽にめくれる服

※健診は静かに受けましょう。医師診察に支障をきたします。



*新入生定期健診血液検査結果説明会（医学科1年・2年編入・看護学科1年）

医学科1年 5月7日(火) 9:50 ~ (2講目)第6講義室

看護学科1年 5月9日(木) 15:20 ~ (6講目)C講義室

医学科2年編入 5月中旬以降に実施 場所:保健管理センター

*B型肝炎ワクチン接種（医学科3年・看護学科2年）

ワクチン接種 ・一回目 4月17日(水)・18日(木)・19日(金)

(全3回接種) ・二回目 5月22日(水)・23日(木)・24日(金)

・三回目 10月16日(水)・17日(木)・18日(金)

時間:15:20~16:20 場所:セミナー室5

※毎回、3日間の都合の良い日1日で受ける。

***実習前感染対策抗体検査（医学科4年・看護学科2年）**

- 抗体検査採血 医学科4年 10月7日(月)・8日(火)
看護学科2年 11月21日(木)・22日(金)
時間：15：20～16：20 場所：セミナー室5
(医学科4年は、クイクセルバッジ用採血も同時に行います)

***抗体検査結果説明会（医学科4年・看護学科2年）**

- 医学科4年 10月21日(月) 8：40～9：40（1講目）臨床第3講義室
- 看護学科2年 12月12日(木) 13：00～14：00（4講目）B講義室

***実習前ガイダンス** 随時、要請があった時に行います。

【 その他の利用法 】

***健康診断書の発行**

奨学金の申請、就職、大学院入試出願、臨床実習等に必要な健康診断書は、定期健康診断書を受けていない場合は発行できませんので、定期健康診断を必ず全員毎年受けて下さい。

連絡先

保健管理センター 0166 (68) 2768

※保健管理センターからの着信があった時は、必ず返信するか、来所して下さい。

※保健管理センターから重要なお知らせ等をメールで行うことがあるため、定期的にメールを確認して下さい。

ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。

申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。



学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り（猶予）できる制度です。

- * 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。
- * 所得の目安は、118万円＋扶養親族等の数×38万円で計算した額以下である場合です。

学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金（注） 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納 付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未 納	×	×	×

（注）障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

申請時の注意点

- 申請できる期間
 - * 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前（既に保険料が納付済の月を除く）まで、将来は年度末まで申請できます。
- 申請に必要な書類
 - * 申請書
 - * 年金手帳（氏名記載ページ）のコピーと学生証
 - * 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給者証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

平成31年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

平成31年度の募集説明は、4月12日（金）午後5時から看護学科大講義室において実施する予定ですので、希望者は必ず出席してください。なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

教 員 の 異 動

平成31年2月18日 辞 職 医学部脳神経外科学講座 教授 鎌 田 恭 輔

今後のスケジュール

4月5日（金） 入学式
4月8日（月）・9日（火） 新入生合同研修会
6月7日（金）～9日（日） 医大祭

【授業開始日】

医学科第1学年、看護学科第1学年	4月10日（水）
医学科第2～4学年、看護学科第2～4学年	4月8日（月）
医学科第5・6学年	4月1日（月）

《お詫びと訂正》

平成30年12月28日発行の広報誌「かぐらおか」第173号の記事『教授就任のご挨拶』において、看護学講座の教授氏名に誤りがありました。4頁2行目「山根由紀子」は、正しくは「山根由起子」です。以上のように訂正させていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。